

脳神経障害のある患者の経口摂取を促進する摂食嚥下ケア教育プログラムの開発と実装

著者	浅田 美和
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2022
学位授与番号	32633甲第234号
URL	http://hdl.handle.net/10285/00016743



氏 名：浅田 美和
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 234 号
学位授与年月日：2023 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 大久保 暢子（聖路加国際大学教授）
副査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美 （聖路加国際大学教授）
副査 鈴木 千晴 （聖路加国際病院 看護部長）

論文題目：脳神経障害のある患者の経口摂取を促進する摂食嚥下ケア教育プログラム
ラムの開発と実装

博士論文審査結果

本プロジェクトは、Eating, Drinking and Swallowing Competency Framework (EDSCF) を基盤とした看護師向けの摂食嚥下ケアの教育プログラムを作成し、実装と評価を行うことで、看護師の摂食嚥下ケアについての知識・技術と自信の向上、患者の経口エネルギー摂取量と充足率の増加、経鼻胃管留置率、経鼻胃管の自己抜去予防のための身体拘束実施率の低減を目指す研究であった。

研究方法は、A 病院の脳神経外科一般病棟にて、1 クールを 4 週間とする PDSA サイクルで摂食嚥下ケアの教育プログラムを実装した。実装アウトカムとして、忠実性は実装チームのミーティングの議事録、患者カルテからの摂食嚥下に関する情報、適切性・受容性・到達度は看護師への質問紙、インタビュー調査、観察によって確認した。効果アウトカムは、看護師の摂食嚥下ケアについての知識・技術と自信、患者の経口エネルギー摂取量、経口エネルギーの充足率、経鼻胃管留置率、経鼻胃管の自己抜去予防のための身体拘束実施率を設定し、看護師への質問紙調査、患者カルテからデータ収集を行った。分析方法は、クール毎のデータを実装前と比較し、変化の推移を統計学的手法ならびに質的分析にて検討を行った。

結果、対象患者は、脳神経系患者で実装前 3 名、実装後 8 名で、対象看護師は 18 名であった。実装アウトカムの介入の忠実性、実行可能性、適切性、受容性は概ね高かった。効果アウトカムでは、実装前後で、看護師の知識・技術に統計学上の有意な変化はなかったが、摂食嚥下ケアに対する自信は有意に向上した。患者の経口摂取エネルギー量・充足率、経鼻胃管留置率、身体拘束実施率は、8 例の患者の病状が多様であり十分な検証ができなかったが、認知機能が保たれている患者において本教育プログラムの効果が示唆された。またインタビュー調査から対象看護師が効果を実感していることが確認でき、本教育プログラムは活用できると評価した。

審査では、経口エネルギー摂取量の計算方法を見直し修正すること、適切な統計学的手法で再分析すること、対象患者 8 例について各事例の経過の記述を追加しアウトカムとの関連を分析すること、事例分析の結果を踏まえた考察を追記すること、結果の文章構成と誤字脱字を修正することの必要性が指摘された。1 月 23 日に第 1 回目の修正論文を審査委員で確認し再度コメントを伝え、2 月 13 日に 2 回目の修正論文を受け取り、指摘事項の修正は適切に行われたことを全審査委員が確認した。また当該院生は、新型コロナウイルス

感染症蔓延の中、医療スタッフ不足などの障壁がありながらも本プロジェクトが継続できるよう、実装チームや関連する多職種と丁寧に関わり、終始、良好な関係性を維持し成果に繋げていた。これはディプロマポリシーのアウトカムを保証するための協働とチームワークを促進する力、組織に働きかけるための態度・資質に値する内容と言える。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。